

第2章

しごと

経済政策
農林水産政策

政策名

経済政策



- 施策1:観光の振興
- 施策2:地場企業の振興
- 施策3:企業立地の推進
- 施策4:ふるさと納税制度の推進
- 施策5:競輪事業収益の確保

望まれる姿

人や財が流入・交流する活力ある産業のまち

部局の使命

将来にわたって活力ある地域社会を支える地場産業を支援するとともに企業誘致を推進し、地域資源を活かした産業づくりと交流人口の拡大を進め、活力とにぎわいにあふれるまちづくりの実現を目的としています。

政策の指標

社会指標	現状値 (令和2年度)	目指す方向
市内総生産(第2次・第3次産業)	749,574 百万円	

問題点の整理

《施策1》

- 新型コロナウイルス感染症は人々の生活スタイルを変え、価値観の多様化が更に進み、観光客のニーズを的確に捉えることが難しくなっています。
- コロナ禍を経てインバウンド需要も高まっていますが、需要の集中する都市部から地方への誘客が課題となっています。
- 佐世保市を訪れる旅行者は日帰り観光が多く、観光消費額を維持するためには、域内での周遊や滞在時間の延長、市内宿泊へつなげ、個人の旅行消費単価を増やす取組が求められます。
- 国では、令和5年3月に観光立国推進基本計画が策定され、「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」の3つのキーワードで観光政策を推進することとされたことから、これらの基本的な方針を踏まえ観光振興の施策を進めていく必要があります。

《施策2》

- 市内企業の持続的かつ安定的な経営が、少子高齢化、人口減少の進行に伴う人手不足と国内市場の縮小等により困難になっています。また、コロナ禍後の事業環境の変化や消費者の価値観や生活スタイルの変化など社会経済状況への対応も課題となっています。
- 生活インフラでもある地域商店街は、インターネットショッピングや郊外型大型店舗等の進出による売上減少等に伴い、事業の継続が困難となり、空き店舗が増加しています。
- 市内中小企業における雇用環境は、新規学卒者をはじめとした生産年齢人口の市外流出が続いており、今後も人手不足がさらに加速することが見込まれるため、女性や高齢者、外国人等の多様な人材が活躍できる働き方への対応が求められています。
- 「させば産品※」は、ふるさと納税の返礼品として多くの寄附を集める「地場産品」があるものの、個々の産品がブランド力を備えたPR等に至っていないものも多く、市内外において必ずしも認知度が高いとは言えない状況があります。

《施策3》

- 本市では、20歳～24歳の年代において転出超過が顕著です。また、産業別新規求人における「製造業」の割合は1割に満たない状況です。加えて、有効求人倍率は1.45倍(令和5年4月)と高い水準にありますが、事務系求職者の有効求人倍率は0.69倍(令和5年4月)と1倍に達していません。これは、求人と求職の間にミスマッチが生じているためと考えられます。

《施策4》

- 多くの自治体が財源確保の重点策として、ふるさと納税に取り組んでおり、国全体の寄附額の増加に合わせ、自治体間での返礼品競争が激化しています。

《施策5》

- 車券売上は、インターネット投票の大きな伸びにより全体として増加していますが、競輪場やサテライトでは来場者・車券売上ともに減少しています。これらの変化を的確に把握し、対応しながら車券売上と収益を確保していく必要があります。また、施設の老朽化が課題となっています。

問題解決の方向性

《施策1》

- コロナ禍で変化した旅行需要と行動の変化を探るため、観光客の実態を把握するデータ収集と分析を進め、観光マーケティングを強化します。
- さらに誘客へつなげるため、ニーズに応える商品の造成と魅力の発信に取り組みます。
- 「ハウステンボス」「九十九島」の二大観光拠点を柱に、日本遺産など本市独自の観光資源を活用しながら市内周遊・滞在を促進し、観光消費の向上を目指します。

- 国の観光立国推進基本計画に基づく施策の動向を見据えながら DMO※と連携し、地域住民や環境、文化等に配慮した持続可能な観光施策を実践し、観光地・観光産業の高付加価値化を図ります。

《施策2》

- 地域経済活性化に向けて事業者の経営基盤の安定と強化を進めるとともに、雇用の安定が図られ、売上増や人材確保といった事業継続に貢献できるよう、新事業や新分野への展開といった事業再構築への支援を行います。また、慢性的な人手不足への対応としてデジタル技術を活用した業務効率化や生産性向上などDX推進に向けた支援や、人材育成や事業承継などの経営課題の解決に向けた取組を支援します。
- 地域生活に根差した商業機能を維持するため、魅力ある個店の創出等を促進することで、魅力ある商業集積の形成を図るとともに、新たに観光需要などの域外需要の取り込みを促進します。
- 労働者の就業意識の変化に伴う就業形態の多様化に応え、労働力を供給しやすい柔軟な形態が広がるよう、市内事業者の働き方改革への取組と多様な働き方への対応を促進します。
- 特産品の認知度向上に向けた情報発信と販路拡大の支援に取り組むとともに、魅力ある新たな「させば産品※」の創出やブランド力の向上、生産性の向上等に向けた取組を支援し、販売促進に取り組めます。

《施策3》

- 製造業の受け皿となる佐世保相浦工業団地への企業立地を実現します。また、設計・開発を含むオフィス系企業についても新規及び事業拡張にかかる誘致活動を行います。これにより、新卒者をはじめ若者やUJIターン者などの雇用の場を確保し、求人と求職の間にあるミスマッチを解消します。

《施策4》

- ふるさと納税制度を活用し、返礼品の造成やインターネット等でのPRを行うことで、購買力の高い都市圏における認知度向上を図り、本市特産品等の販売額向上につなげていきます。

《施策5》

- インターネット投票ユーザーに向けたPRを強化し、車券売上の確保を図ります。また、佐世保競輪場への来場者増及び車券売上の向上を図るとともに、広く市民に開かれた親しまれる競輪場に向けた施設改修を進めます。

施策1 観光の振興

施策の目的

国内外の多くの観光客が本市の魅力を感じ、観光消費により地域経済が活性化することを目的としています。

施策の目標

KPI(重要業績評価指標)	現状値 (令和4年度)	目標値 (令和9年度)
観光消費額	61,046 百万円	95,699 百万円
観光消費額 (一人当たりの平均金額)	24,036 円	34,000 円

市民に求められる基本的な姿勢・役割

- 本市の観光の魅力を感じ、市内外に発信するとともに、観光客に対しては、おもてなしの心で接することが望まれます。

施策の方向性

- **観光DXの推進**
客観的データに基づく効果的なマーケティング活動を展開し、施策の立案・成果の分析評価を次の施策へと繋げる仕組みを整え、観光客の関心を高めます。WEBやSNSなどのデジタル媒体を有効に活用し、知名度・認知度の向上につながるようタイムリーでトレンドを踏まえた観光情報の発信を強化します。
- **独自の魅力や強みの強化**
本市の集客の柱であるハウステンボスから西海国立公園九十九島をはじめ市内各地へと周遊を促し、周遊滞在型観光の促進を図ります。また、世界文化遺産「黒島の集落」や、2つの日本遺産「鎮守府」「三川内焼」など、佐世保ならではの地域資源の深掘りと更なる磨き上げを進めて高付加価値化に繋げるとともに、情報発信、誘致活動に関係機関と連携して取り組みます。
- **インバウンド観光の推進**  クルーズ客船
地方誘客に効果的とされる自然や文化的景観等の活用と整備を進め、知名度・認知度向上と訪日外国人観光客の受入体制の充実を図り、魅力的なアクティビティや体験を提供すること、質の高いサービスや付加価値を提供することで、顧客満足度を高め、リピーターを増やし、持続的な成長を実現します。

● 地域連携、市民参加と持続可能な観光の実践

DMO[※]である（公財）佐世保観光コンベンション協会を中心に、地域住民や事業者、西九州させば広域都市圏[※]の各市町などとも緊密な連携を図りながら、「持続可能な旅行及び観光の基準（GSTC 基準）」に沿った観光の取組を推進します。また、質の高いサービスを提供できる観光人材の育成に取り組みます。

民間の役割

- （公財）佐世保観光コンベンション協会（DMO[※]）を中心に、地域住民、地域事業者と連携し「海風の国[※]」佐世保・小値賀観光圏整備計画等の事業を推進します。
また、ビッグデータ等を活用した誘致戦略に基づき、効果的な情報発信と観光客誘致を行います。
- ハウステンボス株式会社やさせばパール・シー株式会社など民間観光関連事業者は、施設の魅力アップとサービス向上などによる顧客満足度の向上を図ることで、佐世保観光の魅力向上とリピーターの獲得に繋げることが望まれます。
- 多くの観光客が訪れるイベントや地域の行事、祭りなどの実施団体は、市民主導で自立したイベントとして創り育て、交流人口の増加に繋げることが望まれます。
- （一社）宇久町観光協会や NPO 法人黒島観光協会、（一社）高島活性化コンベンション協会 ESPO などの地域団体は、（公財）佐世保観光コンベンション協会などと連携し、世界文化遺産などの地域資源を活用した観光地域づくりに努め、離島エリアや各地域への誘客に取り組むことが望まれます。

施策2 地場企業の振興

施策の目的

地場企業の経営基盤の安定と強化が進むとともに、域外需要を積極的に取り込みながら市民が安定して働くことができる環境を整えることで、地域経済が活性化することを目的としています。

施策の目標



市民に求められる基本的な姿勢・役割

- 企業が生み出す製品や、地場産品に愛着と誇りを持ち、地産地消と地域内循環を基本にして、さらに域外需要の積極的な取り込みに配慮することが望めます。また、地元で働く意思を持ち、自己の能力向上に努めることが望めます。

施策の方向性

- **経営基盤の強化と生産性向上と新たな付加価値の創出**
新分野展開や第二創業など事業再構築への取組や、デジタル技術を活用した生産性向上や新ビジネス創出を図るためのDX推進に向けた取組へ支援を行うことで、企業の生産性向上と新たな付加価値の創出を促進します。また、サテライトオフィス*誘致を推進し、都市部からの人と財の獲得を図ります。
- **新規創業・新分野進出等支援**
創業や新分野への進出への支援や、IT・AIの活用に向けた取組等への支援を行うため、大学や高専などの高等教育機関との連携を進めるとともに、産業支援センターの充実を図り、企業の事業拡大と競争力強化を図ります。
- **魅力ある商業集積の形成**
電子地域通貨の基盤を活用した域内での経済循環の促進及び域外からのマネー獲得、域内還流への取組を促進します。また、商工会議所や民間のまちづくり組織と連携し、魅力ある個店を創出・集積させることで地域の価値を引き上げ、さらなる事業者の流入を促し、魅力ある商業集積を形成します。
- **新しい働き方改革の推進と人手不足への対応支援**
若者の定着と、女性や高齢者（アクティブシニア）、外国人技能実習生など、多様な人材の活用検討と雇用のミスマッチ解消に向けた取組を推進します。また、長崎労働局との連携を強化しながら、就業意識の変化による就業形態の多様化など、新しい働き方改革の推進と人手不足へ向けた支援に努めます。

● 「させば産品」の販売促進

「させば産品[※]」の認知度向上に向けた情報発信、事業者及び団体による魅力ある商品の開発やブランド確立のための取組と販路拡大への支援を進めることで、販売促進を図ります。

民間の役割

- 地場銀行や県保証協会など金融機関等は、本市制度融資への協力や各社独自の金融の取組により地場企業の資金調達等の円滑化を図り、企業経営の安定化と経営基盤の強化に加え、地域経済の活性化の支援に取り組みます。
- 佐世保商工会議所や佐世保市北部商工会、宇久商工会など専門的知見を持つ産業支援機関は、中小企業の抱える経営課題解決や経営基盤強化に向けた支援や競争力強化への支援等を行うことにより経営の安定と企業活動の活性化に取り組みます。併せて中小企業のDX推進に向けて連携して取り組みます。
- 大学や高専など高等教育機関は、各機関が有する専門的知見をもとに連携し、市と一体となって創業や企業におけるIT・AIの活用や、学生によるイベント開催、調査業務など市内産業の全体的な活性化に向けた支援に努めます。
- (一社) 佐世保物産振興協会は、「させば産品[※]」のPRと販路拡大に取り組みます。
- (公財) 佐世保市中小企業勤労者福祉サービスセンターは、市内中小企業等の福利厚生増進を支援します。

施策3 企業立地の推進

施策の目的

新たな企業が立地し、立地企業がさらなる投資を行うことで、魅力ある雇用の場が創出・拡大されることを目的とします。

施策の目標

KPI(重要業績評価指標)

立地企業の新規雇用計画人数
(平成18年度からの累計)

現状値
(令和4年度)

3,986人

目標値
(令和9年度)

4,426人

施策の方向性

● 多様な雇用の場の確保

魅力ある企業の立地実現のため、県・長崎県産業振興財団との連携を密にし、本市の特性を認識しつつ、強みを活かせる企業に対して効果的かつ効率的な企業誘致活動を展開します。

製造業については、佐世保相浦工業団地への立地実現に向け注力していきます。

また、将来製造業の生産拠点への展開が期待される設計・開発を含むオフィス系企業の誘致のほか、立地企業の操業(採用)支援などアフターフォローを充実させ、立地企業のより一層の投資に繋げていきます。



佐世保相浦工業団地

佐世保相浦工業団地

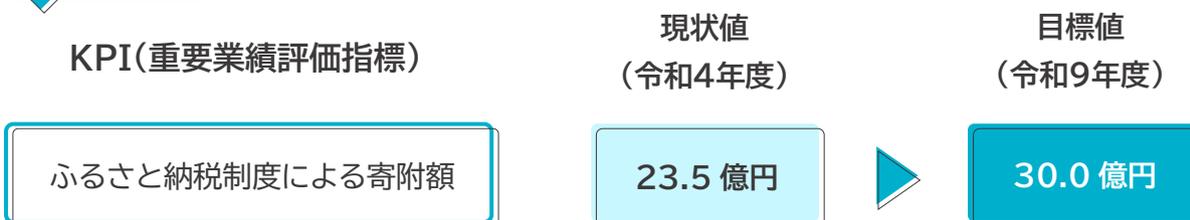
整備箇所:佐世保市相浦町
有効面積:約6.0ha
用途地域:市街化区域(準工業地域)
排水関係:公共下水道接続可
電力:高压電力6.6KV(特別高压電力22KV可)

施策4 ふるさと納税制度の推進

施策の目的

本市特産品の認知度と販売額の向上を目指し、ふるさと納税による寄附額増加を目的としています。

施策の目標



市民に求められる基本的な姿勢・役割

- 本市のふるさと納税や地場産品についての認知度を向上させ、市外の方への情報発信等を行うことが望まれます。

施策の方向性

- **Web等を通じた情報発信**
本市の魅力ある返礼品を充実させ、寄附者に選ばれるための募集情報の効率的かつ効果的な情報発信に努めていきます。
- **ふるさと納税の魅力ある返礼品の造成**
事業者へふるさと納税の販路としての魅力を伝えることで参加意欲を向上させ、本市の観光資源や地場産品を活かした返礼品の開発を奨励することで、寄附件数及び寄附額の増加に取り組めます。

民間の役割

- (一社)佐世保物産振興協会や(公財)佐世保観光コンベンション協会等は、返礼品の発送管理等を適正に行うとともに、寄附者の要望に迅速に responding していくことで、寄附者の満足度向上に努めます。
- 返礼品を提供する事業者は、正確かつ迅速に寄附者へ返礼品を送付することが求められています。あわせて、寄附者に選ばれる商品開発を行うことで受注件数に恵まれ、自社の販路が拡大することで、「させば産品※」の認知度向上につなげていくことが求められます。

施策5 競輪事業収益の確保

施策の目的

競輪事業から一般会計へ持続的かつ安定的に繰出すため、競輪収益を確保することを目的としています。

施策の目標

KPI(重要業績評価指標)	現状値 (令和4年度)	目標値 (令和9年度)
競輪事業の事業収益額	942,882 千円	1,000,000 千円

施策の方向性

- **事業収益の確保**
関係団体と連携し、適正・確実な競輪開催を行い事業収益を確保することで、一般会計への持続的かつ安定的な繰出しに努めます。
- **施設改修の実施**
メインスタンドの建替え等の施設改修を実施し、市民に親しまれる魅力ある競輪場づくりに努めます。

民間の役割

- (公財) JKA は、市と連携し安全・公正な競走の実施に取り組みます。
- 競輪選手会は、日々の訓練により選手個々の競技力向上を図るとともに、場内場外での様々なイベントについて積極的に企画・参加し、競輪競技の認知度向上と競輪ファンの拡大に取り組みます。



九十九島



九十九島観光公園



九十九島



旧佐世保無線電信所(針尾送信所)施設



旧佐世保無線電信所
(針尾送信所)施設



市民文化ホール(旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館)



西九州倉庫棟前畑1号倉庫
(旧第五水雷庫)



黒島天主堂



三川内焼



三川内焼



YOSAKOI させほ祭り



ハウステンボス
HuisTenBosch/J-18156



ハウステンボス
HuisTenBosch/J-18156

政策名

農林水産政策



施策1: 農林業の振興
 施策2: 水産業の振興

望まれる姿

魅力ある「産品」と元気な農林水産業のまち

部局の使命

地域の特色を活かした「産品」と、元気な「担い手」の育成による、農林水産業の活性化を目的としています。

政策の指標



問題点の整理

《施策1》

- 農村部では、都市部よりも高齢化や人口減少が進行していることから、農業の担い手が不足しており、生産基盤の整備や一定規模の産地形成が困難になっています。

《施策2》

- 漁村部では、都市部よりも高齢化や人口減少が進行していることから、漁業の担い手が不足しています。また、気候変動の影響により海洋環境に変化が生じていることから、漁場環境の悪化や水産資源の減少が問題になっています。

問題解決の方向性

《施策1》

- 生産基盤の整備、産品の生産性と品質向上による産地の強化など、農業所得の向上を図り、「儲かる農業」の仕組みを確立することで、新規就農者など担い手の確保につなげます。

《施策2》

- 生産基盤や漁場環境の整備、水産資源の維持、操業の効率化、気候や海洋環境に左右されにくい養殖業の推進などによって漁業所得の向上を図り、「儲かる水産業」の仕組みを確立することで、新規就業者など担い手の確保や安定的な経営につなげます。

施策1 農林業の振興

施策の目的

儲かる仕組みをつくり、ひとを呼び込む農林業の実現を目的としています。

施策の目標

KPI(重要業績評価指標)	現状値 (令和4年度)	目標値 (令和9年度)
新規就農者数	18人	17人
認定農業者 [※] 一人当たりの 生産額	2,150万円	2,305万円
農山村の持つ地域資源の 維持・継承面積	1,925ha	1,925ha

市民に求められる基本的な姿勢・役割

- 地域が生み出す農林畜産物を推奨することが望まれます。

施策の方向性

● 新規就農者の確保

UJI ターン人材などを活用しつつ、多様な担い手の育成・確保に向けた就農支援策を講じることで新規就農者の確保を図ります。さらに、働きやすい環境づくりと、新たな労働力の確保並びに経営の法人化や企業参入を推進し、次代の農業担い手の育成・確保を図ります。

● 生産性と品質の向上による農業者の所得向上

経営資源の集約、スマート農業技術を活用した生産基盤の整備による効率化を図るとともに、近隣市町と連携した取組も視野に入れながら、生産性の向上を推進します。あわせて、地域の特性に適合した品種の導入や高付加価値なブランド製品の生産を推進し、各製品の品質向上に加え、国内外での販路拡大への取組を支援することで農業者の所得向上を図ります。

また、生産者が安心して出荷できるように、卸売市場等（青果・花き・食肉・と畜場）の環境整備に努め、農作物の被害防止等を図るための有害鳥獣対策に取り組みます。

● 農山村の持つ多面的機能を有する地域資源の適切な維持・継承

持続可能な営農を支える施設の整備を行うとともに、集落営農組織や農作業受託組織など、地域農業を支える団体の設立を推進します。また、森林は木材生産のほか、森林保護による川や海の保全や土砂災害防止機能などの多面的機能を有していることから、森林活動団体との連携により、森林施業など多様な取組を推進するとともに、カーボンニュートラル[※]及びスマート林業の取組を検討していきます。

民間の役割

- ながさき西海農業協同組合は、行政と情報を共有し、新規就農者の掘り起しを積極的に行います。また、営農指導の充実による品質の向上と経営規模の維持・拡大を推進し、加えて多様な販路を開拓することにより、組合員の所得向上に努めます。
- 土地改良区は、農業施設をはじめ、農村の有する地域資源の適切な管理と農業担い手への農地集積を図ります。
- 長崎北部森林組合は、森林所有者及び本市と連携を図りながら、適切な森林整備に努めます。



西海みかん

温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれた佐世保市南部の「西海みかん」は、大村湾やハウステンボスを望む環境で生産されています。

生産者の愛情が込められた日々の徹底した管理と、ミネラル豊富な潮風、そして眩しい太陽の日差しのコラボレーションにより育まれたみかんが、アミノ酸などの栄養をたっぷり含んだ「西海みかん」になります。

味わいは、とても甘味が強く、味が濃いのが特徴です。

長崎和牛

美しく複雑な海岸線を持つ半島や離島からなる長崎県内で、登録制度に登録した生産者が肥育した牛が長崎和牛となります。

夏は涼しく、冬は暖かい恵まれた自然環境の中で、1頭1頭が丹精に愛情を込めて育てられています。

このため、全国的にも長崎和牛は高く評価されており、第10回全国和牛能力共進会で内閣総理大臣賞を受賞するなど様々な賞を受けています。

佐世保市内では、長崎和牛として育てるための子牛を生産・出荷する繁殖経営が盛んですが、恵まれた環境を活かした肥育経営も行われており、出産から肥育、食肉としての出荷まで、市内で一貫して行われています。

肉本来の旨みを持つ赤身と、まろやかな味わいの脂身の絶妙なバランスが特徴です。



長崎和牛

施策2 水産業の振興

施策の目的

儲かる仕組みをつくり、ひとを呼び込む水産業の実現を目的としています。

施策の目標

KPI(重要業績評価指標)	現状値 (令和4年度)	目標値 (令和9年度)
新規就業者数	44人	26人
漁業者一人当たりの漁獲高	1,179万円	1,295万円

市民に求められる基本的な姿勢・役割

- 地域が生み出す水産物を推奨することが望まれます。

施策の方向性

● 新規就業者の確保

UJIターン人材などを活用し、就業支援策を講じることで新規就業者の確保を図ります。さらに、働きやすい環境づくりと、新たな労働力の確保並びに経営の法人化を推進し、次代の漁業担い手の育成・確保を図ります。

● 生産性の向上による漁業者の所得向上

漁港などの生産環境の充実、スマート漁業技術などを活用した新規設備導入による操業の効率化に加え、国内外での販路拡大への取組を支援することで、漁業者の所得向上を図ります。さらに、漁業経営の多角化、産地加工並びに、新種苗導入による養殖漁業の推進等により漁業経営の安定を図ります。

また、生産者が安心して出荷できるように、水産市場の環境整備に努め、水産加工団地への企業立地を進めます。

● 水産資源の維持及びそれを育む漁場環境の適切な保全

付加価値の高い種苗の研究・開発及び生産拡大のため、水産センターの機能強化・充実やIoTを駆使した種苗生産に取り組み、水産資源の維持増大を図ります。また、地域漁業活動組織との連携による、藻場や干潟など、漁場環境の回復を図るとともに、カーボンニュートラル^{*}の実現のための取組を進めます。

民間の役割

- 漁業協同組合は、行政と協力し藻場や干潟の回復、種苗放流による資源増大の取組を積極的に行うとともに、漁場の資源管理や、新種苗の導入による養殖漁業などの取組を推進します。また、経営指導を推進し、加えて多様な販路を開拓することにより、組合員の所得向上に努めます。

九十九島かき



九十九島かき

「九十九島かき」が養殖されている九十九島の海域は島々から豊富な栄養分が流れ込み、カキのおいしさをより豊醇でクリーミーに育て上げます。

また、リアス海岸の複雑な入り江に包まれ、波も静かなため身入りが良くなるなど、カキの生育には最高の条件がそろっています。

いまや佐世保ブランドの秋冬の代表格として、市内だけでなく市外の人からも多くの支持をいただいています。

九十九島とらふぐ

208ともいわれる島々が浮かぶ九十九島の海域は、複雑な地形が生み出した潮の流れと、島々から流れる滋養成分により、数多くの魚介類が獲れることや養殖場所として最適な漁場となっています。

佐世保市の特産品である西海みかん。そのミカンを早摘みして九十九島とらふぐのエサに添加することにより、九十九島とらふぐの血流がよくなるため、健康で身が引き締まったとらふぐに育ちます。

九十九島とらふぐ

